

# 日風園

高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ

第95号 2016年11月1日

## 特別展 発掘された日本列島2016 新発見考古速報

2016年11月12日(土)～12月18日(日)

岡本 桂典

特別展「発掘された日本列島2016 新発見考古速報」いよいよ開幕！

日本では、毎年約8,000件の埋蔵文化財の発掘調査が行われています。その発掘調査で出土する土器や石器、瓦などの埋蔵文化財は膨大な数になります。この埋蔵文化財には、同じものではなく、文献に記載されていない地域固有の歴史や文化を物語ってくれます。それらの出土品の中には時として、歴史上重要な発見もあります。しかし、私たちは、新聞やテレビなどで報道されても、なかなかその出土品に触れる機会はありません。そこで、文化庁が皆さんにできるだけ早く貴重な出土品を紹介できるように、毎年全国を巡回しているのが、この展覧会です。

文化庁主催の「発掘された日本列島」展は、平成7年度から開催され、本県では平成8・16・21・23年度に開催、今回で5回目となり、江戸東京博物館を除き、地方博物館では最も多く開催しています。

中核展示 新発見考古速報

旧石器時代～近代まで22遺跡最新の成果

本年度は、中核展示の新発見考古速

報として、旧石器時代から近代までの22遺跡、541点の出土品を速報展示いたします。すべてが、高知では初公開のものばかりです。展示する遺跡・遺物は次頁以降に紹介します。

特集1 復興のための文化力

東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護

特集1として、東日本大震災後の平成23年度から継続している東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の成果の展示もいたします。今回は、岩手県、宮城県、福島県から7遺跡、153点の出土品を展示、発掘調査の成果を紹介いたします。この展示は、東北の歴史を紹介することにより、被災地における「文化の復興」に寄与し、復興に関心をもちたいことに繋がると考えています。

併せてコラムとして津波教訓碑の例「読み解く」和歌山県美浜町(日高郡)浜ノ瀬津波之紀事碑などの拓本を紹介いたします。

特集2 復興の歴史を掘る

自然と共に生きた先人の記録

特集2として「復興の歴史を掘る」と題し、展示が企画されました。平成

23年3月11日、午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、観測史上最大規模の地震となり、引き起こされた津波、その後の余震は甚大な被害をもたらしました。そして、東京電力の福島第1原子力発電所事故は、我々の想像を遙かに越えたものです。

日本列島は地震、津波だけでなく、噴火や豪雨、洪水など様々な災害が歴史で発生しています。本特集は、「過去の災害の記憶を風化させることなく、将来の災害に備えていくことを目的」(文化庁編「発掘された日本列島2016新発見考古速報」による)に企画されています。発掘調査で明確になった災害史とそこから復興を遂げてきた日本人の足跡をたどります。我々は、常に過去からの警鐘に耳を傾ける必要があります。そこにこれからの防災のヒントを見出すことも可能と考えられます。ここでは、7遺跡、出土品55点及び関連パネルを展示紹介します。

今回展示される出土品は、約3万年前の旧石器時代から明治時代までの出土品、北は北海道から南は鹿児島県まで36遺跡、約750点の資料が展示されます。会場は、3階の総合展示室(約700㎡)となっています。また、地域展として、南国市田村遺跡群の弥生時代の銅矛などの青銅器類を紹介いたします。関連する講演会、講座なども開催します。

# 特別展 発掘された日本列島2016 新発見考古速報

中核展示 新発見考古速報展 旧石器時代〜近代まで22遺跡最新の成果 岡本 桂典

高知では5回目となる「発掘された日本列島2016」の中核展示 新発見考古速報「展の中から遺跡と遺物の主なものを紹介しましょう。」

## 旧石器時代

北中島西原遺跡 熊本県上益城郡山都町  
狩猟民のキャンプ跡

九州山地から熊本平野に延びる標高520mの丘陵地で見つかった遺跡です。この遺跡は、約3万年前の鹿児島湾から良カルデラ大噴火に伴う火山灰の下から発見されたことから、これより遡る時期のものと考えられています。ナイフ形石器と呼ばれる狩猟用の道具や焼けた石を集めて蒸し焼き調理をした礫群などが見つかりました。石器を製作



ナイフ形石器 熊本県教育庁蔵

した石材の多くは、チャートと呼ばれる石ですが、約110km離れた佐賀県伊万里市腰岳産の黒曜石など遠隔地の石材も含まれています。狩猟以外の生業活動の痕跡はあまり確認できなかったことから、狩猟の為に集まった短期キャンプ地と考えられています。

## 縄文時代

史跡星ヶ塔黒曜石原産地遺跡

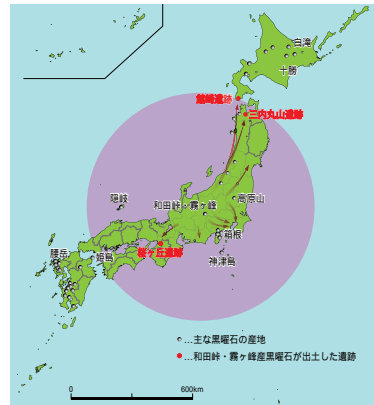
長野県諏訪郡下諏訪町  
縄文人の黒曜石の採掘方法とは？

長野県中央部に位置する霧ヶ峰、北西山麓の星ヶ塔山の東斜面、標高1,500mに、縄文時代前期(約5,700年前)と晩期(3,000年前)の黒曜石採掘跡があります。約三万五千mの範囲に、いまだに埋まりきらない縄文時代の採掘跡の窪地が、193力所残っています。この遺跡は、大正9年(1920)に徳島県出身の鳥居龍蔵(考古学・人類学・民族学者)の調査により黒曜石の原産地であることが判明した遺跡です。その後、昭和34〜36年(1959〜61)に考古学者藤森栄一により縄文時代の黒曜石採掘跡であることが明らかとなり、考古学史上有名な遺跡となりました。この遺跡のことは、藤森の随筆集『かも



黒曜石 下諏訪町立諏訪湖博物館蔵

しかみち』に登場します。和42年(昭和42年)にちなみにこの随筆集の



遠くまで運ばれた長野県の黒曜石

中には、若き頃の高知県の考古学者の名前もあります。

黒曜石を採集するために、縄文時代前期には黒曜石の塊を鹿角を用いて掘り起こしていたと推定されています。晩期には、地表下1.5m以下にある黒曜石の岩脈を敲石でコツコツと掘り割っていたと考えられます。晩期の人は、1回に数100kgの黒曜石を掘り出していたと想定されています。この遺跡の黒曜石は、縄文時代前期以降、東北地方から東海・北陸地方までの広い範囲に供給されています。縄文時代の交流や社会を考える上で貴重な遺跡です。

館崎遺跡 北海道松前郡福島町  
北の拠点集落から国内最大級の岩偶

館崎遺跡は北海道最南端の白神岬の北東にあり、津軽半島を望む事のできる標高24mの台地に位置しています。縄文時代前期末から中期中葉(5,000〜4,500前)にかけて営まれた集落遺跡です。竪穴建物61棟、土

坑147基、盛土遺構が確認され、土器91万点、石器類43万点が出土しています。盛土遺構の中から頭部の欠失した国内最大級の線刻の大型石偶が出土しています。また、滑石製球状



大型岩偶 北海道埋蔵文化センター蔵  
線刻の大型石偶が出土しています。また、滑石製球状



黒曜石の石鏃 耳飾が55点出土しています。この遺跡からは、先に紹介した620km離れた星ヶ塔産

の黒曜石の石鏃が初めて出土しました。青森県三内丸山遺跡でも同様の石鏃が確認されており、同遺跡経由でもたらされたと考えられています。

六反田南遺跡 新潟県糸魚川市  
縄文世界を区切る石列

新潟県最西端の糸魚川市にある遺跡で、日本海から約200mの内陸を流れる海川の右岸、標高3〜5mに位置しています。遺跡は堆積層が3層に分かれ、上層は古墳時代・古代、中層は縄文時代中期中葉、下層は縄文時代中期前葉で、各層から当時のムラの跡が見つかっています。各面の間には、洪水層が堆積していました。下層のムラでは、多数の竪穴建物が見つかっています。居住域の東側には、土器や石器、食べかすなどを廃棄した区域があります。この区域を区切るように石(玢岩)

列が、造られています。石列で区切られた東側は、残された樹木の分析により森であったと考えられています。出土した縄文土器は石川県・富山県に分布する土器を中心に、東北系・越後系、



縄文土器  
(公財)新潟県埋蔵文化財事業団蔵

中部高地系の土器があります。石器は、磨製石斧や製作途中のものもあり、製作工程を知ることができ、石器群



高槻市教育委員会蔵  
時代前期(約2500年前)の水田跡、前期末から後期(約2400~1900年前)の墓域、中期から後期(約2300~1900年前)の灌漑施設が見つかっています。

水田は小区画水田で、地形の傾斜にあわせて造られています。しかし、前期末に洪水の砂礫により埋まりました。その後、方形周溝墓や土器棺墓が造営されました。

この遺跡は、弥生の米作りが始まったころの、農村風景を彷彿とさせる遺跡で、国史跡となっています。

松帆銅鐸 兵庫県南あわじ市

淡路島で銅鐸、舌を伴う銅鐸7口

平成27年4月に石材製造販売工場の砂山から7口の銅鐸が発見され、マスコミを騒がせました。銅鐸が本来どこに埋納されたのかは、不明です。7口の銅鐸の中で6口は、2口一組の入れ子状態でした。銅鐸の舌には、紐が残っていました。この松帆銅鐸の鑄造された年代は、弥生時代前期末から中期と推定されています。これらの資料はパネル展示のみとなります。

岸田遺跡 福岡県福岡市  
奴国王を彩る青銅器

福岡県西部の早良平野の最南端に位置し、丘陵と沖積地上に立地する弥生時代を中心とする集落と墓地の遺跡です。丘陵上で、弥生時代前期末から後期(約2200~1900年前)の甕棺墓、木棺墓、土坑墓が発見されました。丘陵で発見された墓は、78基にの

置し、丘陵と沖積地上に立地する弥生時代を中心とする集落と墓地の遺跡です。丘陵上で、弥生時代前期末から後期(約2200~1900年前)の甕棺墓、木棺墓、土坑墓が発見されました。丘陵で発見された墓は、78基にの



細形銅剣 福岡市教育委員会蔵

ほり、弥生時代前期末から中期初頭の甕棺墓4基と木棺墓1基から銅剣5口、銅矛3口、把頭飾(銅剣の柄の先端に付ける飾り)が1点出土しています。

弥生時代前期末から中期初頭は、九州北部に、後にクニと呼ばれる集落が形成される時期にあたります。多くの青銅器を所有する岸田遺跡は、クニの成立を考える上で重要な遺跡です。

河原口坊中遺跡 神奈川県海老名市

弥生のしがらみ、今も変わらず

神奈川県中央部を流れ相模湾に注ぐ相模川左岸の自然堤防上に立地する弥生時代から近世に至る複合遺跡で、



小銅鐸  
(公財)かながわ考古財団蔵

弥生時代中期から後期の大型規模な集

落が発見されました。竪穴建物、掘立柱建物、方形周溝墓、水溜状遺構、しがらみ状遺構(木や竹を柵状に組んだ遺構)などが確認されました。竪穴建



板状鉄斧  
(公財)かながわ考古財団蔵

物は、500棟見つかっていました。遺物では、神奈川県では3例目となる高さ8.1cmの小銅鐸が出土しています。河川からは、土器や柄付の環状石器、ト骨などの骨角器、最大級の錆びていない板状の鉄斧、農具や漁労具、建築資材などの木製品も出土しています。

弥生時代のくらしを知ることのできる貴重な遺跡です。

古墳時代

史跡乙訓古墳群 京都府京都市・向日市・長岡京市・大山崎町

古墳を築き始めて400年

京都府を流れる桂川右岸の嵐山から天王山にかけての乙訓地域(長岡京市・向日市・乙訓郡大山崎町・京都市一部)に古墳が多く築造されています。これらの古墳を総称して乙訓古墳群と呼んでいます。この地域には、37基以上の前方後円墳など大型古墳があつたことが知られています。大正時代に発掘調査がなされ、その後も継続的に調査・研究がされ古墳の規模や構造、出土品などの内容が明らかになってきました。この乙訓地域の古墳の築造は、3世紀後半の五塚原古墳に始まり、元稲

弥生時代

史跡安満遺跡 大阪府高槻市

弥生の農村風景

です。製作された石斧は、各地に運ばれたと考えられます。ヒスイ原石も出土していますが、敲石として利用されています。なお、石列は、國造神社境内に移築され、復元されています。

安満遺跡は、大阪府高槻市東部を流れる松尾川が形成した扇状地に立地しています。昭和3年(1928)京都帝國大學農学部付属農場の開設時に発見されました。昭和7年に小林行雄が北部九州にもたらされた稲作が、初めて畿内に伝播した事を指摘した遺跡で、学史的にも重要な遺跡です。弥生

荷古墳、寺戸大塚古墳などの前方後円墳、前方後方墳が造られます。古墳時代前期末（4世紀）には、天王の森古墳、鳥居前古墳などが造られます。鳥居前古墳からは巴形銅器などが出土しています。中期（5世紀）になると本古墳群最大の全長128mの前方後円墳の恵解山古墳が造られます。この古墳からは、副葬品埋納施設が確認され、刀剣など鉄製武器約700点が見つかっており、地域の首長の墓と考えられています。墳丘には円筒埴輪や朝顔形埴輪などが立てられていました。後期（6世紀）には、物集女車塚古墳などが造営され、横穴



埴輪古墳文化センター  
鳥形埴輪  
京都府埋蔵文化センター  
長岡京

式石室から金銅製冠や大刀、馬具などが出土しています。終末期（7世紀初頭）には、この地域の首長墓として今里大塚古墳が築造されます。乙訓古墳群は、古墳時代初頭から終末期まで、首長の墓を築造し続けた古墳群なのです。

古代

古代では、信濃国伊那郡を治めた郡役所である郡家（郡衙）に関連する遺構や遺物が発見された、飛鳥から平安時代の史跡恒川遺跡群（長野県飯田市）、常陸国那珂郡の役所と寺院からなる飛

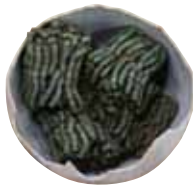
鳥（平安時代の史跡淡路里官衙遺跡群（茨城県水戸市）、平城宮の瓦を焼いた史跡中山瓦窯跡（奈良県奈良市）3基、東塔の解体修理と発掘調査が行われた史跡薬師寺旧境内遺跡（奈良県奈良市）、平安時代の集落跡で糸や布を生産した可能性のある平安時代の神屋遺跡（茨城県稲敷市）があります。恒川遺跡群では、米や粟、郡家の祭祀を物語る馬形など、中山瓦窯跡の鬼瓦、神屋遺跡からは紡錘車や火熨斗（アイロン）が出土しています。

中世

中世では、南北朝時代の土壘に囲まれた中津居館跡（山口県岩国市）、奥州の軍事的緊張を伝える足利満貞の稲村御所館跡（福島県須賀川市）、秀吉の造った幻の城、伏見城跡（京都府京都市）、美濃桃山陶を焼いた代表的な大萱古窯跡群（岐阜県可児市）があります。中津居館跡からは、約4〜5万枚の銭貨が備前の甕に納められた状態で出土



火熨斗  
茨城県教育財団蔵  
(公財)



一括出土銭  
岩国市教育委員会蔵



京都市蔵  
金箔瓦

濃桃山陶を焼いた代表的な大萱古窯跡群（岐阜県可児市）があります。中津居館跡からは、約4〜5万枚の銭貨が備前の甕に納められた状態で出土

しています。稲村御所館跡からは、漆器や烏帽子が出土し、伏見城跡からは、秀吉の金箔瓦が出土しています。

近世

史跡江戸城石垣石丁場跡（静岡県熱海市・伊東市・沼津市・東伊豆町、神奈川県小田原市）  
江戸幕府は諸大名を動員し、江戸城の築城を進めました。江戸城石垣の大多数は、伊豆半島に産する伊豆石が用いられ、その石丁場が見つかっています。ここには土佐藩の石丁場もありました。この遺跡はパネル展示のみとなります。



静岡県  
石置の稲取  
「御進上松平土佐守/十内」  
銘

近代

豊田旧名主家ビール工場跡（東京都日野市）  
ビール瓶から明治の香  
東京都日野市豊田地区の山口家にあつた、明治19年から9年間醸造が行われていたビール工場跡が発掘調査されています。そこから貴重な転用ビール瓶などが出土し、国産ビール黎明期の生産の実態が明らかになりました。



日野市教育委員会蔵  
転用ビール瓶

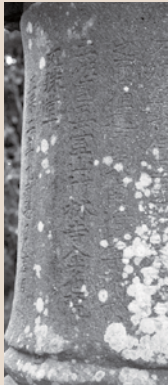
コラム

江戸城に運ばれた伊豆石  
土佐にも運ばれる 岡本桂典

高知市五台山の四国霊場第31番札所金色院竹林寺には、西相模から伊豆半島（神奈川県・静岡県）で産する伊豆石（安山岩）で製作された石燈籠が1基あります。この石燈籠は、現在竹林寺で一番古い石燈籠です。竿と呼ばれる所に、石燈籠於伊豆國採巨石離造：土佐國五臺山竹林寺金色院/文殊堂/正保二年（1645）乙酉七月吉日」などと刻されています。他銘文によれば石燈籠は、2代藩主山内忠義が寄進したものです。



石燈籠



石燈籠竿の銘文

山内忠義は、土佐国内の社寺に石燈籠を寄進していますが、他の石燈籠は花崗岩製です。伊豆石を用いたものは、現在のところ、この竹林寺の石燈籠だけです。

## 発掘された日本列島2016 新発見考古速報

特集1 復興のための文化力 東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護

岡本 桂典

2011年の東日本大震災から5年が経過しました。マスコミでも報じられているように、現在も復興に向けた取り組みが続いています。その中で、重点的に進められてきた事業に、住まいの確保があります。津波の来ない高台への移転などの復興事業に伴い、埋蔵文化財の発掘調査が急ピッチで実施されています。しかし、この発掘調査には専門の職員が多く必要です。そこで文化庁は、岩手・宮城・福島県の3県を除く44都道府県から専門調査員を募り、のべ250人以上の職員が発掘調査に携わっています。また、発掘調査に伴う現地説明会も3県で100回を越え、約1万4千人の方が参加され、故郷の歴史に触れています。

石峠 遺跡・宮城県内山遺跡・中沢遺跡・谷原遺跡・福島県高橋遺跡）が縄文時代の遺跡です。1遺跡（上渋佐原田遺跡）が平安時代の遺跡となっています。

特集1では3県から7遺跡、計153点の出土品を展示紹介します。7遺跡のうち、6遺跡（岩手県津軽石大森遺跡、

谷原遺跡では、縄文時代中期末から後期の環状集落跡が確認され、中央の広場を囲むように掘立柱建物跡56棟が見つかっています。福島県の高橋遺跡では、拠点集落が確認され、そこから竪穴建物や配石遺構が見つかり、住居跡からは全国的にも類例の少ない男性土偶が出土しています。

津軽石大森遺跡  
石峠 遺跡  
内山遺跡  
宮城県  
岩手県  
秋田県  
青森県  
山形県  
福島県  
中沢遺跡  
谷原遺跡  
上渋佐原田遺跡  
高橋遺跡  
3県7遺跡

男性土偶  
福島県高橋遺跡  
楳葉町教育委員会蔵

ています。

土地に刻まれた歴史には、災害を乗り越えて生きた人々の歴史があります。これらを活用することは地域のコミュニティを再構築することにもなるのではないのでしょうか。地下に埋もれていた東北の豊かな歴史にも是非触れてみてください。

復興はまだまだ続きます。福島県の原因の被災地の復興は、これから本格化します。復興と埋蔵文化財の保護に今後とも取り組んでいくこととなります。

## 発掘された日本列島2016 新発見考古速報

特集2 復興の歴史を掘る 自然と共に生きた先人の記録

岡本 桂典

災害には、地震・津波、火山噴火、水害など自然環境に関わるものだけではなく、大火や飢饉、原子力発電事故など人間と関わる災害があります。

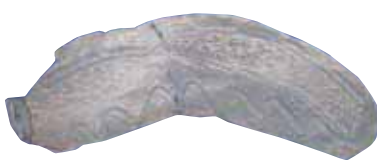
かつて、災害にみまわれた遺跡の展示会は、開かれたことはありませんが、災害の痕跡の展示に新たな復興という視点を取り入れた展示は、今までありませんでした。今回は、この新たな視点で7遺跡出土品55点、写真パネルなどで紹介します。

火山灰台地に生きた人々

大震災を生き抜いた縄文人・平安人 現生人類が、日本列島に居住した時から自然災害との戦いは、繰り返され続けています。古くは、約3万年前の旧石器時代に遡ります。鹿児島県鹿児島湾北部の始良カルデラの爆発により、南九州は壊滅的な環境になったと考えられています。しかし、しばらくすると旧石器人たちの足跡が、鹿児島県の桐木・耳取遺跡などでみられるようになります。この遺跡からは戻ってきた人々の石器類や礫群が確認されています。

地球の陸地の1%にしかみられない日本列島ですが、世界で発生する地震の10%が発生しています。大地は常に揺れているのです。当然、縄文人も大地震に遭遇しています。大きな地震にあった縄文人の足跡が、福島県相馬市の段ノ原B遺跡にあります。この遺跡からは、地震に伴う大きな地割れが見つかり、地割れ発生後に土器や木を入れて、がれき処理を行っています。同じ福島県で、貞観11年（869）に大地震と大津波が発生、古代の役所である多賀城などが大きな被害を受けました。この時、復興のために多賀城の瓦を窯で生産しています。

この窯跡が、与兵衛沼窪跡です。この瓦造りには、博多で海賊行為の嫌疑をかけられ、捕らえられた新羅人が従事させられていたようです。このことを物語るように、窠跡から出土した棟平瓦は、朝鮮半島の統一新羅時代の宮殿跡から出土した瓦の様式と類似しているのです。



窠跡沼窪 与兵衛沼窪跡  
宮城県仙台市教育委員会蔵  
棟平瓦

過去からの警笛が、将来の防災に繋がればと思います。



噴火直後に来た人々が使った  
石鏃(剥片尖頭器)  
鹿児島県桐木・耳取遺跡  
鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵

過去からの警笛が、将来の防災に繋がればと思います。

# 発掘された日本列島2016 新発見考古速報

## 地域展 田村遺跡群の青銅器

岡本 桂典

田村遺跡群は、高知県の東部に位置し、高知平野を流れ土佐湾に注ぐ物部川右岸、標高8〜9mの自然堤防状の微高地に立地しています。この遺跡群の所在地には、私たちがよく利用する空の玄関口、高知龍馬空港があります。土佐湾洋上から滑走路へ進入する飛行機は、汀線（ていせん）をあつという間に越え滑り込みます。この滑走路の先端部に高知を代表する弥生時代の遺跡が眠っているのです。

さて、この遺跡の発見は昭和30年（1955）に遡ります。青銅器の銅鐸・銅矛の発見は、さらに明治時代に遡ります。昭和49年（1974）には小学生が、水田から県内唯一の銅鐸の舌を偶然に発見しました。また、高知空港拡張に伴う発掘調査で銅矛や鏡片、銅釧片などが見つかっています。

まず県内の弥生時代の青銅器の分布についてみておきたいと思います。弥生時代の中期初頭には、仁淀川流域に細形銅剣が瀬戸内から持ち込まれます。中期中葉には、中細形銅剣、中細形銅戈が窪川台地に入ってきました。近年、県東部にも分布圏が広がり注目されています。中期から後期になると中細形

銅剣、中広形銅矛、中広形銅戈、扁平鈕式銅鐸がみられるようになります。後期の前・中葉には、広形銅矛、近畿式銅鐸が流入し、東部地域に分布が広がります。

弥生時代後期、瀬戸内や山陰から青銅器が消滅した後にも、南四国では近畿式銅鐸と九州からもたらされた銅矛がみられます。この田村遺跡群は、両者の混在地域なのです。この青銅器が捨て去られると次の時代に向かうのです。

なお、南国市篠原にある高知県立埋



銅鐸の舌  
南国市教育委員会蔵

蔵文化財センターでは、平成28年度特別展「田村遺跡群とその時代2・弥生時代中期〜終末」(10月24日〜29日4月7日)を開催、弥生時代中期から終末までの遺跡について、関連する遺物を中心に展示、その時代の特色を紹介しています。

# 土佐の地震・津波碑のデジタル化への取り組み

独立行政法人海洋研究開発機構

高知コア研究所 研究員 谷川 亘

高知県内各地には、歴史南海地震の被害の様子が刻まれた石碑が建てられています。古くは宝永地震(1707年)からチリ地震(1906年)までの地震被害の生々しい様子が巨石に刻まれています。そのため、地震・津波碑は供養・慰霊碑としての位置付けだけでなく、歴史資料としての価値があります。東日本大震災以降、こうした石碑の記録書としての価値が改めて見直されてきました。しかし、我々の記憶がすこしずつ風化していくのと同様に、石碑もまた雨風と植生による風化が進行し、石碑が傷み解読不能な文字も見受けられ、将来への保存と防災教育などへの活用の仕組み作りが急務とされています。

そこで、本プロジェクトは海洋研究開発機構高知コア研究所・防災科学技術研究所・高知大学と共同で、高知県内の地震・津波碑を対象に、三次元デジタルイメージ化による地震碑の保存、および碑文の内容と地図情報をリンクさせたウェブブラウザ上での情報提供の実施を計画しています。3Dモデルは、市販のデジタルカメラを用いて対象物を様々な角度から撮影した多

数の画像を用いて構築します。3D構築作業は市販のソフト(Agisoft社製PhotoScan)を用いて行っています。このソフトは、高度な専門的知識は必要なく、誰でも簡単に使用できることから、石碑以外の考古学的文化財を対象にしたデジタルアーカイブ化への応用と普及が期待できます。なお、これまで制作した石碑の3Dモデルは3Dモデルのウェブ表示サービス「Sketchfab」で閲覧できます。  
URL: [https://sketchfab.com/tanikawa\\_wataru](https://sketchfab.com/tanikawa_wataru)

平成28年度内に県内すべての石碑の3Dモデルを完成させて、防災科学技術研究所が開発する災害情報共有のための「SNS・eコミュニティ・プラットフォーム」を活用した情報提供を実施する予定です。



3Dデジタル化した萩谷名号碑

**お客様をお花で  
お迎えしています**

今年も、岡豊地区の皆様にご協力をいただき、県道入口から当館へ通じる道の途中2箇所に花を植えました。

今年も、高知県立高知農業高等学校の生徒さんが育てられた日々草とハナスベリヒユ、そして地元の方が提供してくださったマリーゴールドです。

梅雨の晴れ間の6月23日(木)に、みんなで汗をかきながら植えた色とりどりの花たちは、この夏の暑い日差しにも、台風にも負けず、秋口まで岡豊山を彩り、目を楽しませてくれました。  
(道脇)



**岡豊山フォトコンテスト  
表彰式と写真展**

9月22日(木・祝)、岡豊山フォトコンテストの表彰式を行いました。

今年も応募29作品の中から、最優秀賞「夜桜」をはじめ10作品が各賞に選ばれました。応募全作品は、10月30日(日)まで、当館1階フリースペースに展示しました。岡豊山を舞台に撮影された様々な写真は、それぞれに素晴らしく、岡豊山の自然の豊かさや季節の移り変わり、人の温かさなどを私達に語りかけてくれています。

今年も感動する、力作ばかりでした。

(道脇)

**れきみんニュース**

**第6回 岡豊山の夏祭り**

夏の恒例行事となった岡豊山の夏祭りが、8月13日(土)に開催されました。

今年も岡豊地区を中心とした地元の方々にご協力いただき、うまいもの屋台や縁日を出店。館内では粘土で土器作りやペットボトルのフタを再利用したものづくり教室も開かれました。

また、高知県立高知東工業高等学校情報技術部の生徒さんによる手作りゲームを楽しめるテントでは、電流イライラ棒やゴム鉄砲などをお客様に楽しんでいただきました。

そして、毎年館内に恐怖の悲鳴を響かせている職員手作りのおばけ屋敷。入口まで来ても中に入る事ができない、という方が出るのも恒例となりました。

その後は、こわい怪談話の会場として舞台転換。南国市立図書館の武市館長による怪談話に、背筋がゾクツとした方もいらつしやるのではないのでしょうか。と、今年の夏も岡豊山はお客様の笑い声と悲鳴でいっぱいになりました。

ご来館くださいました皆様、ありがとうございました。  
(吉田)



図録

文化庁編 発掘された日本列島2016  
新発見考古速報

歴史館受付 書店でも販売中  
B5版 72頁 1,994円(送料レターパックライト360円)

研究紀要

高知県立歴史民俗資料館研究紀要第20号

A4版 74頁 700円(送料300円)

[論文]

「民具収集についての走り書きの覚書  
- 「高知県」という広がりの中で -」...香月洋一郎

[研究ノート]

「南国市久礼田熊野神社の銅戈」.....森田尚宏  
「熊野神社の銅戈をめぐって」.....岡本桂典  
「高知県南国市久礼田熊野神社所蔵銅戈のX線  
透過撮影および蛍光X線分析について」...魚島純一  
「企画展「長宗我部遺臣それぞれの選択」の構成  
内容を振り返って」.....野本 亮

[史料紹介]

「竹心遺書」について.....野本 亮

臨時休館のお知らせ

特別展「発掘された日本列島2016」に伴う展示替  
え・撤去・復元のため、下記の期間休館とします。

11月6日(日)～11月11日(金)  
12月19日(月)～12月23日(金・祝)

年末年始の休館日のお知らせ

12月27日(火)～2017年1月1日(日)

れきみんのお正月

2017年1月2日(月)

岡豊風日(おごほうじつ) 第95号  
平成28年11月1日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088(862)2211  
FAX 088(862)2110  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり  
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円  
(団体(20人以上) 360円)  
(特別展企画展)通常展示 510円  
(団体(20人以上) 410円)  
無料: 高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)  
印刷: 川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/ rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

特別展

発掘された日本列島2016  
新発見考古速報

2016年 11月12日(土)  
～12月18日(日)

毎年全国で8,000件近くの埋蔵文化財の発掘調査が行われています。文化庁が主催となり近年、全国で発掘調査された遺物の中から特に注目された出土品を中心とした展覧会を開催します。



大型岩偶(残存長37.1cm)  
北海道館崎遺跡 縄文時代前期末(約5,000年前)

講演会「福島県相双地域の古代製鉄と東日本大震災の復興調査」(定員130名)  
11月19日(土) 14:00～16:00 要予約・観覧券要  
講師: 吉田秀享氏(福島県文化振興財団調査課長)  
講演会「発掘された日本列島2016のみどころ」(定員130名)  
11月26日(土) 14:00～16:00 要予約・観覧券要  
講師: 森先一貴氏(文化庁文化財部記念物課文部科学技官)  
講座「淡路島発見の銅鐸の謎」(定員130名)  
11月12日(土) 14:00～16:00 要予約・観覧券要  
講師: 宮里 修氏(高知大学講師)

ミュージアムトーク 観覧券要・予約不要  
11月23日(水・祝)、12月3日(土) 14:00～15:00  
ワクワクワーク「ミニチュア鏡をつくってみよう」(定員15名)  
12月11日(日) 10:00～12:00 要予約・参加費要  
特別展開催中は、3階総合展示室(特別展)と2階長宗我部展示室のみご覧いただけます。

コーナー展

えと 西  
干支の玩具



2016年 2017年  
12月24日(土)～1月31日(火)

安芸土鈴(高知県)

干支の西にちなんで、山崎さんのコレクションを中心に鳥の郷土玩具を展示します。琉球張り子(沖縄県)の闘鶏や小幡人形(滋賀県)の卵売り鶏などをご紹介します。

ワクワクワーク「土佐和紙漆喰張り子 とりの絵付け」講師: 草流舎 田村多美氏  
1月21日(土) 14:00～15:30 (定員30名) 要予約・参加費1,500円

次回予告

企画展 幕末の土佐  
- 書跡にみる人物群像 -

2017年1月29日(日)～5月10日(水)

「志国高知 幕末維新博」関連企画の第一弾。来年は大政奉還から数えて150年目となります。本展では、幕末を駆け抜けた「草莽の志士」と、彼らに様々な影響を与えた学者や文化人の書跡を一堂に展示します。

また、土佐藩上層部の人々の書跡も併せて展示し、幕末を生きた人々の個性やそれぞれの「志」の源流を探ります。



間崎滄浪戯書 高知県文教協会蔵